

令和3年度 延岡市立北方学園 評価書

〈評定〉 4…期待以上 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善を要する

評価項目	評価内容	自己評価			学校関係者評価
		評定	成果…○	課題…●	
学力の向上	○ 児童生徒一人一人の夢や進路実現のために、基礎学力定着に取り組むとともに、特別支援教育の支援体制づくりに取り組む。	3.5	○ 学力検査の結果 ・ 小学校1～4、6年生のCRTは、全学年ではなかったが、国語・算数の得点率が全国平均とほぼ同じ、または上回る結果であった。 ・ 小学5年生の「みやざき学力状況調査」では、国語・算数の正答率が県・市の平均を大きく上回る結果であった。 ・ 中学校では、全国学力学習状況調査・みやざき学力状況調査において県平均点・市平均点よりは若干低い、前年より上回っている。 ○ 本校で共通実践している「授業改善の4+4のチェック」の自己評価や「読み取る力」の育成の成果であると考え。 ○ 月1回の校内支援推進委員会で、特別支援学級に在籍している児童生徒の共通理解を行い、個に応じた教育の推進を図っている。	●	○ 学力の底上げが結果に出ていることは素晴らしいと思います。 ○ 学力向上への取組が学力検査等に結果として表れて素晴らしい。子どもたち、先生方の努力の賜物。今後も期待をもって応援したい。 ○ 全体的に向上していると思います。 ● 学習の習熟度に応じて段階的により高い所を目指して欲しい。
当たり前のことが当たり前ででき、豊かな人間性・主体的に生きる力の育成	○ 豊かな心の育成のために、道徳教育の充実と地域に根ざした教育活動に取り組む。	3.5	○ 地域の方へのアンケート結果から、昨年度に比べ、自分から積極的に取り組む姿勢が見られるようになり、自立の心が育っている。 ● 保護者へのアンケート結果から、あいさつについては二極化している面もあることが分かる。 ※ 今年度は、児童生徒が自ら企画したり、運営していく活動を取り入れ、「豊かな人間性・主体的に生きる力」の育成を目指している。 ○ 地域と連携した教育活動が実施できない状況が続いているが、そんな中でも地域の力をもらいながら、有意義な活動が推進できた。 ・ 米作り・もちつき体験(小5) ・ウナギ放流体験(小4、5) ・ 地場産業体験学習(中1) ・うちわ作成・配付(中2)	●	○ 全体的に十分な結果が出せていると思う。 ○ 「地域ならではの」活動ができている点は良かったと思います。 ○ あいさつをよくしている。特に校内では、どの児童生徒もばっちりできている。 ● 校外(地域)で会った時はできている子とできていない子の二極化を感じる。
児童生徒が将来にわたって、自他の健康に関心が持てる力の育成	○ 健康的な生活の習慣化と体力向上の取組を推進する。	3.5	○ 体力テストの結果 ・ 小学校では、県平均と比較してみると、シャトルランと長座体前屈の値は高く、上体起こしと(腹筋)と握力(筋力)に課題がある。 ・ 中学校では、県平均と比較してみると、握力と立ち幅跳び(ジャンプ力)の値は高く、50m走と長座体前屈(柔軟性)に課題がある。 ※ 授業のはじめに、サーキットトレーニングを取り入れたり、課題のあった種目に関連する筋肉を鍛える準備運動を行ったりすることで体力向上を図っている。また、活動時間をできるだけ多くしている。 ○ むし歯治療率の向上のために養護教諭を中心に啓発している。 ・ 小学校…73.0%(昨年度)→64.4%(今年度)(9%ダウン) ・ 中学校…60.9%(昨年度)→60.0%(今年度)(±0)	●	○ スポーツ少年団や部活動でよく頑張っている。 ○ 給食時の指導がよく行き届いているように感じる。廊下の掲示物等も丁寧。 ● 子どもの減少などでクラブ活動・部活動が成り立たなくなると、益々運動する機会が減少すると心配している。 ● 虫歯治療は各家庭の課題。
家庭・地域との連携	○ 家庭や地域と協働で児童生徒を育てるために、教育活動の情報発信と開かれた学校づくりを積極的に推進する。	3.5	○ 「校長室だより」や「北方学園だより」を地域に配付している。地域の方へのアンケートでは、「見ている」と答えた割合が、ほぼ100%であった。さらに閲覧してもらうため、ホームページに掲載した。 ○ ホームページについては、1年間の閲覧者数が累計約15万人(昨年度は…約14万人)である。できるだけ活用していきたい。 ○ 今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、活動の規模を縮小したり、会議等の中止を余儀なくされた。しかし、関係機関や地域の方々の協力を頂き、大きな混乱もなく、教育活動を展開できた。 ※ 学校評価アンケート(保護者)において、「児童生徒の姿に満足しているか」という質問に対して、93%が満足しているとの回答があった。	●	○ コロナ禍、地域や家庭に学校に来てもらうことが少なくなり、連携が難しいと思う。学校の想いと地域・家庭の想いが良い方向で繋がるといい。 ○ 地域との連携はできているのではないかと思います。 ● 見る人の特徴をしつかり見極め「欲しい情報」「受け取りやすい方法」を確立する必要がある。

【総評】本年度の取組について 次年度への改善に向けて

今年度は、「自立」「貢献」をスローガンに、児童生徒が自ら考え、行動できる活動を取り入れてきた。例えば、新しい制服を自分たちで検討・提案したり、児童会・生徒会を中心に本校の看板作成に取り組んだり、立志式や旧小学校清掃ボランティア活動を企画・運営することができた。また、児童生徒との関わりの時間や授業準備の時間の確保をするため、校時程を変更し放課後の時間確保を行った。次年度へ向けて、さらに働き方改革の推進を図ること、児童生徒が分かる・楽しい授業を実践すること、令和5年度のコミュニティースクール開始に向けての準備期間となるので、学校運営協議会等の組織作りを図ることを柱に、地域と共にある学校を目指していきたい。